

第四十六回 「全日本中学生水の作文コンクール」 岐阜県優秀作文集

水について考える

主催 水循環政策本部、国土交通省、岐阜県

後援 文部科学省、農林水産省、

経済産業省、環境省、

独立行政法人水資源機構、

水の週間実行委員会、全日本中学校長会

「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、次代を担う中学生の皆さんに、暮らしの中で体験している水にまつわる話や、ご両親、ご親族、先生方から学び聞いた話などをもとに、「水」や「今後の水の使い方」について考えていただくという趣旨で、水の日・水の週間の行事の一環として実施しています。

今年第四十六回を迎え、岐阜県表彰として最優秀賞一作品、優秀賞二作品を選定しました。

この三作品を優秀作文集としてとりまとめ、岐阜県のホームページに掲載します。

いずれも水に対する真剣な思いが伝わってくる作品です、ぜひご一読ください。

「第四十六回全日本中学生水の作文コンクール」(※岐阜県分)

一. 応募要領

① テーマ 「水について考える」(題名は自由)

② 対象 中学生(令和六年度に岐阜県内の中学校に在学中の者、または岐阜県内の義務教育学校の7～9年

次に在学中の者)

③ 原稿 四百字詰め原稿用紙四枚以内、日本語により表記されたもの

④ あて先 岐阜県都市建築部水資源課

⑤ 募集締切日 令和六年五月八日

⑥ 版權等 ・ 応募作品は個人作品に限ります。

・ 応募作品の版權は国土交通省及び岐阜県に帰属します。

・ 応募作品は返却しません。

二. 応募状況 応募学校数 四校、 応募総数 七十六作品(一年…二作品、二年…〇作品、三年…七十四作品)

三. 審査

応募作品を岐阜県で審査(地方審査)し、五作品を中央審査対象作文として国土交通省に推薦しました。中央審査における入選以上の者を除き、岐阜県表彰受賞者を選定しました。

目次

国表彰（中央審査）

該当なし

岐阜県表彰（地方審査）

【最優秀賞】（岐阜県知事賞）

『美しい川の景色を守るためには』

川辺町立川辺中学校

三年 松原 萌夏（まつばら もか）

【優秀賞】（都市建築部長賞）

『僕たちの身近にある川を大切に』

川辺町立川辺中学校

三年 石井 千尋（いしい ちひろ）

【優秀賞】（水資源課長賞）

『川辺のシンボルを守る』

川辺町立川辺中学校

三年 前島 美来（まえじま みらい）

『美しい川の景色を守るためには』

川辺町立川辺中学校 三年 松原 萌夏

私の住んでいる川辺町には木曾川水系の一級河川である、飛騨川が流れています。飛騨川は、飛騨山脈の乗鞍岳南麓を水源として、約百四十八キロメートル流れ、美濃加茂市で木曾川に合流する大きな河川です。私の通っている川辺中学校の隣にも流れていて、そこではよくボート大会や、川の上から花火を打ち上げる、川辺花火大会なども行われています。

私は川辺町だけでなくいろいろな地域で活躍する飛騨川の魅力と、どのようにして川の景観を守っていくのかをこの作文を通してみなさんに伝えたいと思いました。

私の思う飛騨川の魅力は、どんな季節も必ず楽しめるイベントや景色があることです。春には、遊歩道にきれいな桜が咲き、水面にはきれいな花びらのじゅうたんができて、絶景のさんぽ道になります。夏は、私の住む川辺町で花火大会が行われ、夜の七時三十分になると大きな花火が川の上から打ち上げられます。私は小学校の三、四年生の時にお母さんと行って、たくさん屋台が出ていたり、きれいな花火がたくさん上がったりして、楽しくて「また行きたい」と思った事を今でも覚えています。それからコロナの影響でなかなか開催されず、去年やっと開催され、今度は友達と見に行きました。昔と同じで屋台がたくさん出ていました。初めて見る花火ではないのに昔と同じような衝撃を受けました。水面に映る花火もすごくきれいでした。今年も誰かと見に行きたいです。また、夏はアユやマスなどの魚釣りも人気です。他にも川沿いでのバーベキューや川遊びなど、夏は特にイベントや川遊びなど楽しい事が盛りだくさんです。秋には真っ赤に色づくモミジやケヤキが見れたり、巨大なアマゴやイワナが釣れたりもします。冬には、川沿いが雪でおおわれた美しい景色を見ることが出来ます。

しかし、きれいな飛騨川を守っていくためにもポイ捨てをなくすことや水質のきれいを保っていく事が大切です。私が遊歩道を歩いている時で

も家庭のごみや、たばこの吸い殻、ペットボトル、空き缶などたくさんのごミが落ちているのを見かけました。私はきれいな飛騨川をいつまでも守っていくためにもポスターでの呼びかけや、一人一人の意識がとても大切になると思います。ポイ捨てが続いていけば、生き物が過ごしくなってしまうたり、今まで楽しめていたイベントも、楽しめなくなったりしてしまうと思います。私の高校二年生のお姉ちゃんは中学三年生の時に、クラスの取り組みとして、班員と遊歩道を歩きながらゴミ拾いをしていました。私が部活に行くときでも、地域の取り組みとして、ゴミ拾いをしている人を見かけることがあります。そのような取り組みを町全体に広げていくことが飛騨川のゴミをなくすために大切になると思います。また、水質のきれいを保っていくために私たちができることを調べてみると、食べ残し、飲み残しを減らすこと、調理くず、お皿についたよごれをそのまま流さず、水きりネットやキッチンペーパーを使うことなど処理の仕方を考え、ゴミ箱に捨てられるようにすると、きれいな川も生き物も守っていかれると思います。

これからも美しい飛騨川の景色を守っていけるように、ゴミの捨て方についてもう一度考えてみてください。

『僕たちの身近にある川を大切に』

川辺町立川辺中学校 三年 石井 千尋

僕が住んでいる川辺町には飛驒川が流れています。飛驒川は木曾川水系の一级河川です。岐阜県高山市・下呂市・加茂郡白川町・加茂郡八百津町・加茂郡七宗町・加茂郡川辺町・美濃加茂市を流れて、美濃加茂市川合町で木曾川本川に合流します。乗鞍岳南麓を水源とし、河川法区域百三十六・八キロメートルと木曾川最大の支流です。

川辺町内では、川辺ダムによって出来た流れが穏やかな水域を使ったボート競技が盛んです。川辺中学校にはボート部があり、僕も所属しています。しかし、最近川での練習中に気になる光景を目撃することが多くあります。それは、排水の影響でできたかもしれない水面の泡や浮かんでいるごみです。

一つ目の水面の泡は、水が流れてくる排水管の近くでよく見られます。環境に影響があると言いつけることはできませんが、近くに排水管があることも考えるとやはり気になります。川の水面に泡が浮かぶ原因としては、自然由来のものやそうでないものがあります。自然由来のものの場合、水の中のタンパク質等の働きで泡ができるので環境への影響はほぼないと言われています。しかし、自然由来でないものは環境への影響があるものもあります。それは、家庭からの生活排水、工場からの排水等でできる泡です。生活排水に含まれる洗剤には界面活性剤というものが含まれているものもあります。これは水面の表面張力を下げ、泡を発生させやすくするものです。衣類を洗濯する時などには役立ちますが、川へ流れてしまうと住んでいる魚などにとっては毒になってしまいます。結果として、魚などの生き物が死んでしまい、生態系のバランスが崩れてしまう原因となっています。工場からの排水には種類がありますが、やはり界面活性剤を含んでいる物もあります。このことから、僕は日常生活で水道を使うとき安易

に洗剤を含んだ水を流さないようにしなくては、と思いました。

二つ目の浮かんでいるごみは、水面の泡よりもっと気になります。最近では、ポイ捨て禁止などの看板、ポスターがあらここに立っているのに、なぜ川にごみが浮かんでいるのでしょうか。もちろん浮かんでいるごみ全てがポイ捨てによるものではないかもしれませんが、うっかり風で飛んでしまったものなどもあるかもしれません。しかし、自分が出したごみは自分で正しい場所に捨てる、というのが普通なのではないでしょうか。ところで、皆さんは川に浮かんだごみが環境にどのような影響を与えるか知っていますか？川自体が汚染されるなどの影響もありますが、他にも影響があります。実は川に落ちているごみは、海へ流れ込み、海をも汚染しているのです。海では、浮かんでいるプラスチックが時間をかけ細くなり、魚が間違って食べてしまうなどの問題も起きています。そして、その魚は僕達が食べているものかもしれません。このような海に浮かぶごみは国際的にも問題視されています。持続可能な社会に向けた目標、SDGsの十四番「海の豊かさを守ろう」にもあるようにきれいな海は未来にも必要なものなのです。

僕たち、中学生はこれからの未来を担う存在です。今生きている人、自分たちの未来、さらに未来の人々のためにも、普段自分たちが関わっている「水」についても一度考え、大切にしていきたいです。

『川辺のシンボルを守る』

川辺町立川辺中学校

三年 前島 美来

私が住んでいる川辺町には、飛驒川という木曾川最大の支流でもあり、川辺町のシンボルでもある川が流れています。

そんな川がある川辺町で私は、中学校から部活動でボートを始めて、毎週のように冬以外は川に出てボートの練習をして、その度川を見てこの先も変わらずにボートが出来るきれいな川でいて欲しいと思います。

そのために自分達に出来ることは、三つあります。

一つ目は、ポイ捨てをしないということです。川にポイ捨てをしないだけでなく色々な所でポイ捨てはよくないと思います。そのゴミが風にふかれて川に落ちることもあるし、上流の山奥で山登りをしているときに、ポイ捨てをしたら、川に流れついて飛驒川に来ることだって可能性はゼロじゃないと思います。だから、ポイ捨てせずにゴミは家まで持ち帰ってしっかり管理するのが大切だと思います。

二つ目は、呼びかけです。飛驒川の中にある川辺ダムにはいつも生活面で、助かっています。さらに、川辺のシンボルとして色々な場面で活やくしてくれていると思います。だから、恩返しのためにも私たちが飛驒川に貢献して、さらに活やくしてもらえるようにするために、呼びかけを町民で協力しながら、がんばっていかたいと思います。でも、呼びかけと言っても何をしたらいいのか分からない人も出てくると思います。そんな人には、ポスターを作ったりすることが一番効果が出ると思います。私たちの町を自分たちで変えることは、とても大切だと思うので、積極的に動けるといいと思います。

三つ目は、飛驒川の魅力を知ることです。私たちは、普段の授業で飛驒川について調べる機会が多く、その分魅力も分かっているつもりです。だけど、日常生活の中で飛驒川について調べる人はゼロじゃないと思うけど、

本当に少ないと思います。だから、町民の人や町外の人に飛驒川の魅力を知ってもらうきっかけを作ればいいと思います。そのために自分たちが出来ることは、まず、飛驒川について発信して、飛驒川の知名度を上げた後に飛驒川の魅力に気づいてもらうことです。そしてもっと知名度が上がったときに、今の魅力よりも増やしていきたいです。増やすためにはやはり、自分たちで出来ることを探してそれを行動にうつすことが大切だと思います。

このように飛驒川に貢献できる時は沢山あると思います。そして普段自分たちがなにげなく使っている水は飛驒川があるからそのものだと私は思います。さらに私の場合、ボートが出来るのは、飛驒川のおかげです。これからも、その川に感謝してさらに、水に感謝して生きていきたいです。そのためには、この川には、今何をしてあげられるかなどを考えて、それを実行していくことが大切だと思います。川辺町の水を守ることは伝統であるボートを守ることもつながります。だから私はこれからも、ふるさとのシンボルである飛驒川を守り続けたいと思います。そんな飛驒川には今日も、色々な人が目標を持ってボートをこいでがんばっています。